# MAYDAY2020 日銀前メーデー宣言（案）

私たちは 2020 年 5 月 1 日、「コロナショック」と呼ばれるようになったこの状況下において、「日銀前メーデー」を決行する。

今年は 1890 年の第 1 回国際メーデーから 130 年の年であり、また国内の労働団体によるメーデーが 1920 年に初めて行われてから 100 年目でもある。

◆

WHO のパンデミック（感染症の世界的大流行）宣言によって、それまでにも顕在化していた経済危機が「パンデミック恐慌」として、私たちの前に立ち現れている。

パンデミックはギリシャ語のパン（すべての）デモス（人々）が語源だ。パンデミック恐慌は、すべての人々、とりわけ不安定雇用や脆弱な社会基盤に依拠して生活せざるを得ないすべての人々に影響を与えている。

◆

安部首相は五輪延期の発表を行った3月 24 日の後、26 日に「経済をV字回復させるため、思い切った強大な経済政策を大胆に練り上げて」いくと発言。その後落ち込んだ消費を促進するための「お肉券」「お魚券」といった商品券配布案の検討、二枚のマスク配布などを経るが、5月の今なお全住民一人一人に対する生活保障はなされていない。

人々への補償が遅れる一方で、日本銀行のパンデミック恐慌対策。金融機関や大企業の救済、金融市場の維持を目的とした資金供給の増加などの金融緩和策は3月はじめから行われ、4月 27 日の金融政策決定会合ではついに無制限の国債購入にも踏み切った。医療や福祉の切り捨てを進め、「経済成長」ばかりを追い続ける新自由主義経済を反省することもなく、これまで通りのシステムを救済するために。

さらに、このコロナ危機の最中に小池百合子東京都政は都立病院の削減（民営化＝独法化）のための予算を議会で可決した。健康と命でもっとカネ儲けができるようにすることが目的だ。惨事便乗型資本主義（ショック・ドクトリン）の典型と言える。

株式市場や新自由主義の金融市場を通して人々の生活を救済するということは絶対できない。

◆

カネは公的医療や公衆衛生の充実のため、それを維持するインフラ従事者、医療従事者の命と生活を最大限守るため、「自粛要請」による失業・休業、命を守る休業を余儀なくされる人々の生活のために。また、非常事態において一層孤立が深刻になる、普段から社会の中で抑圧されている人々に特に目を向けて使われるべきだ。

◆

気候変動の危機を訴えるグレタ・トゥンベリさんの毎週金曜日の学校ストライキはFFF(Fridays For Future＝未来のための金曜)と呼ばれている。私たちもグレタさんに倣い、FFFF(Fridays For Fair Financial＝公正な金融のための金曜日)を呼びかけ、毎週金曜日に日銀前で抗議を行ってきた。

個々の人間を犠牲にすることを是とする金融もそうだが、自然環境、気候を犠牲にし続けている金融というものも、また許すわけにはいかない。我々は人間だけが存在する社会に生きてはいない。自然環境、野生生物、そして我々人間にとって病原体となりうる様々なウイルスも普段から社会の中にあるものの一つだ。

ウイルスが人々にとって深刻な危機の引き金になるという脆弱なシステムから抜け出さなくてはならない。

◆

危機を引き起こした張本人であるキャピタリストの責任を追及しよう。コロナは危機のきっかけにすぎない。

パンデミック恐慌下のメーデーの日。世界中のオルタグローバリゼーション運動も様々な制限のなかで、怒りと連帯の声をあげている。新自由主義の社会変革に抗するパン(すべての)デモス(人々)の目指す社会のため、行動しよう。

物理的距離を取りながらも、社会的距離を奪われてはいけない。

人々を分断しようとする切り捨て政策や排外主義に抗議し、連帯を取り戻そう！